

『やわた市民の時間』学習指導案

実施学年	小学校 第5学年 3組	男子13名	女子12名	合計 25名
テーマ	ルールって何だろう	目指す能力	ルールをつくるために必要なことを見通す力	
実施年月日	平成22年2月5日(金) 2校時	指導者	葉狩宅也	

1 ねらい

- ① ルールについて考え、その必要性がわかる
- ② ルールをどのようにするかを理解し、それにかかわる仕事についてわかる。
- ③ 「正しいルール」とは何かを考え、みんなで作ったルールはみんなで変えられることがわかる

2 児童の実態およびテーマ設定の理由

5年生も後半の時期となり、思春期の入り口にさしかかった言動が少なからずできるようになってきた。反面、「幼さ」を引きずり、低中学年のように話したり、行動することも少なくない。また、「軽度発達障害」的な行動を繰り返す児童も複数いる。

そうした中での学習は、イメージしやすい「言葉」や「具体物」を通して考えることは入りやすいが、概念的な「言葉」や「抽象世界」には入りにくいことが多い。生活面でも、「利害がはっきりすること」や「ペナルティが見え隠れすること」には取り組もうとするが、自分や集団のために「必要」であったり「意味」を見いだして主体的に取り組んでいこうとする児童は少ない。

また、「クラスあそび」をはじめとした交流や活動は、積極的に取り組んでいるが、様々な「トラブル」や「不満」をかかえており、その改善をどのように進めていくべきかに、とまどっている子どもたちがいる。

そこで、この学習では、子どもたちが考えを出しやすい教材や活動を組み込みながらすすめることを大切に、「ルール」にかかわる「言葉」や「意味」を自分たちの生活世界とつなげながら理解していくようにすすめたい。

また、この後に続く展開として、特別活動の「児童会活動」や「委員会活動」、「学級活動」などへの取り組みにいかしていくことをめざしたい。

3 指導観およびシチズンシップ教育の視点

わたしたちの社会には、道徳や慣習、合意にもとづいた、様々なルールがある。それがなんのためにあるのかを、児童が実感をもって理解していくことは大切な学習となる。また、そうしたルールが、社会の中ではどのように作られ、運用され、改変されるものであるかということ、小学生の認識の発達レベルに合わせて学習させたいと思う。

「八幡市シティズンシップ教育コアプログラム」の中の「ルール・マナー」に位置づく本テーマは、ほぼ時期を並行するように研究・実践が進んできている「法教育」の視点と重なり合うところがある。法教育研究会の江口勇治氏は、編著『小学校の法教育を造る—法・ルール・きまりを学ぶ』（東洋館出版社）の中で、「法教育の実践的課題」として、「法教育の基本は、法・ルール・きまりの健全な法感覚・法意識の発達を通じて、子どもが自由かつ公正な社会の担い手として育つことにある。そのためには、法・ルール・きまりの授業の創造では克服しなければならない次のような基本的な実践課題がある」として、以下の5点を指摘している。

- ① 考える習慣の形成を目指す授業を基本とすること
- ② 価値をめぐる言語力の育成を目指す授業へ
- ③ 社会参画力の道具を身に付ける授業をもとに
- ④ 人間の尊厳さの保障を授業の基本に
- ⑤ 裁判員制度の教育だけではない授業のいっそうの充実を

こうした課題に一步ずつ迫り、シティズンシップ教育の具体的実践が、自らの生活や社会への見方を鍛え、主体的に関わる能力をつけることにつながる取り組みになることをめざしたい。

4 指導計画 (全5時間)

第1時 図書館のルールは？

絵本『としょかんライオン』を読みながら、図書館のルールについて考える。

第2時 ルールがなくなったら…

ルールのもとには「慣習」「道徳」「合意」。ルールは平和で安全な社会をまもるためにある。

第3時 ルールはどうやってつくるの？ (本時)

だれがルールを作るべきかを考える。ルールにかかわる仕事は「立法」「行政」「司法」。

第4時 市長になりたい！

市長はどんな仕事をするのか。市長にふさわしい人はどんな人か考える。

第5時 そんなルールまちがってるよ！

ルールが作られた方法～その内容を検討する視点。そのルールが必要かどうか？変えることもできる。

5 本時の目標

- ルールをどのようにつくるか、擬似的体験活動を通してわかる。
- ルールに関わる仕事について考える。

6 本時の展開 (3/5)

指導過程	主な学習活動	指導形態	シティズンシップ教育に関わる留意点と観点 (10のビジョン)	評価 《評価方法》
導入 展開	1. お話を読み、「だれがルールをつくるべきか」考える。	一斉	前時の学習をふり返り、ルールの必要性をふまえて考えることを指示する。	ルールをつくることの大切さと、「だれのために必要なルールか」を考えながらつくることができたか。 聞いている人にわかりやすく発表できたか。
	2. ルールづくりを体験する	個別	1人で考える時、「自分のこと」を中心に考えるのか「他者のこと」を中心に考えるのかを意識させる。	
		グループ	1人で考えることに詰まったら、どのようにしたらよいか考えさせる。	
	3. 考えたルールを発表する。	一斉	考えたルール (内容) とともに、だれのことを中心に考えたか発表させる。	
	4. みんなが納得して守れるようなルールをつくるには、どうしたらよいか考える。	一斉	民主主義の基本としての話し合いを理解させる。	
まとめ	5. ルールに関わる仕事には、どんなものがあるか考える。	一斉	「ルールをつくる仕事」「ルールができたことでしなければならない仕事」「ルールに従い争いを解決する仕事」という関係を簡単な言葉で整理する。	
	6. 今日のふり返り、感想を書く。	個別		本時のふりかえりを文章でまとめることができたか。